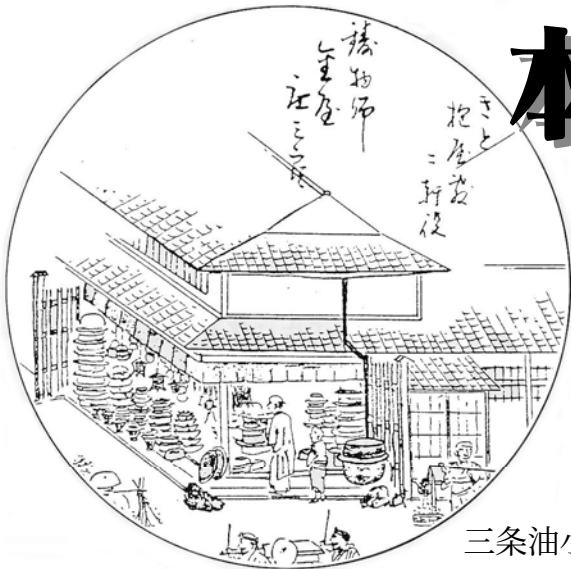




# 本能まちづくりニュース

第42号 平成19年12月10日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net

URL http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。

三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## のれんの華咲く「おいでやす染のまち本能」

去る11月17・18日の「まちなかを歩く日」に、本能まちづくり委員会は恒例の「おいでやす染のまち本能」を開催しました。本年は、本能まちづくりサポート隊である立命館大学乾ゼミ本能班・京都府立大学宗田研究室の学生さんたちが、財団法人大学コンソーシアム京都の助成する「大学地域連携モデル創造支援事業」として、17・18日の一般参加に先立って、子ども達対象に「のれんの華ワークショップ」と「探して！見つけて！色あてゲーム」を行い、大変盛り上がりしました。17日午前中は、京都市・五条警察署・本能交通対策協議会の協働で、油小路通の錦・蛸薬師間を「歩行者天国」にしてもらうことができ、子供達や保護者がのびのび路上に広がることができました。近隣のご町内の皆様、ご協力ありがとうございました。先ず、学生さんたちが企画したイベントをご紹介します。

### のれんワークショップ開催！

10月20日(土)午前、子供たちに少しでも染めに馴染んでもらおうということで、私達「本能サポート隊」は、印染職人さんの協力を得て、高倉小学校・御池中学校を対象に『のれんを染めようワークショップ』を開催しました。

11月のまちなかを歩く日や3月の伝統産業の日のイベント時に、油小路通に飾られている40色の古代色のれんをご存知ですか？今回のワークショップでは、糊置き・引染・水元の3工程を3グループに分かれてローテーションで体験しながら、新たに12色の古代色のれんを作りあげます。当日の参加者は、高倉小・御池中合わせて24名、保護者4名でした。



今回体験するのれん作りは、糊置き→引き染め→水元の順で出来上がります。糊置き(細やかな柄の輪郭をなぞり、柄を糊で覆う防染作業)、引き染め(生地に染料液を刷毛で均一に染色する作業)、水元(糊を洗い落とす作業)。以上3つの工程を土山印染店で体験してもらいました。

まず、糊置きでは、『柿』という字の下絵にそって糊を置いていきます。一人一枚、自分の名前入りのオリジナル作品です。(この手拭いは、後日職人さんによって柿色に染められ、17・18日本能ギ



ャラリーに飾り、各自にプレゼントしました。)子供たちは真剣!!集中して黙々と作業していました。慎重に糊を置いていく子、真ん中から大胆に糊を置いていく子など、それぞれ個性が出ていました。小学校の先生たちも一緒に糊置きをし、生徒たちに負けないくらい真剣に取り組んでおられました。

次に、引染では、既に糊置きした状態ののれんを染めていきます。「これぞ、のれんを染めている」という実感!!今回作る12色ののれんのうち6色を染めました。刷毛で白い生地を鮮やかな色に染めていきます。初めに職人さん達が説明しながら見本を見せます。さすが何年も培ってきたプロの技!!ムラがない!!子供たちも手取り教えてもらい、のれんを綺麗に染めていきます。多少ムラにはなりますが、これもなかなか味がある!!染めたての古代色の綺麗なのれんが工場の中を彩ります。

水元では、糊置きしていた部分をアルカリが入った水で落とします。擦ると糊が剥がれ、漢字の文字が白くくっきりと綺麗に現れました。この手品みたいな現象に子供たちみんなびっくりしている様子でした。

今回のイベントを通して、子供たちに少しでも染めについて知ってもらい、染めの面白さを知り、更に地域交流に繋がればと思いました。





☆ ワークショップのことを思い出すと、参加してくれた子供たちのとても楽しそうな顔と、一生懸命に作業する参加者を見守る職人さんたちの笑顔が浮かびます。また、もちろん私たち学生もとても楽しく色々なことを学ばしていただきました。特に二回生にとっては、初めて触れる本能の染めのまちとしての一面ということもあり、学生は参加者のサポートが役目と頭ではわかっているけれども、自分も体験してみたいという気持ちが終始続き、夢中で説明に聞き入っていました。(後日、学生は参加者の作品の仕上げのお手伝いをさせていただきました。ありがとうございました。)最初のうちは参加者の方々と、どうコミュニケーションを取ればよいのかわからず戸惑う部分もありましたが、一緒にワークショップを体験していく中で子供たちともうちとけることができ、素晴らしいイベントになりました。

(立命館大学 村田義樹)

## 探して!見つけて!色当てゲーム☆



11月17日の午前中に、「おいでやす染めのまち本能」の一環で、今回「初」の試みである、高倉小学校・御所南小学校、そして御池中学校の児童生徒を対象としたイベント「探して!見つけて!色当てゲーム」&「のれんスタンプラリー」を行いました。このイベントは、10月20日に行った「のれんワークショップ」と連動させたもので、のれんワークショップで子供たちが染めた12色の古代色のれんの、漢字表記の色名の読み方および色名の由来となっている動植物を、のれんの色と実際の花や鳥の写真とを見比べながらゲーム形式で当てていく、その名の通り「色当てゲーム」です。

当日は、朝早くにも拘わらず、生徒と保護者の方含めて245名もが本能館に集まれ、会場はかわいい子供たちの声で大にぎわい!!西嶋まちづくり委員長とスマイル21委員会を代表した宮崎さんの挨拶の後、いよいよ

よゲーム説明。そして、ゲームの説明が終わった途端、子供たちは一斉に12色ののれんに向かって我れ先にと駆け出して行きました!!保護者の方と一緒に一生懸命色の名前を考える子、友達と相談しながら答えを解答用紙に書き込む子、一人でのれんと睨めっこして考え込む子。みんながそれぞれ楽しみながら、真剣に色当てゲームに挑んでいました。

色当てゲームが終わった子供たちから、解答用紙を提出して、「のれんスタンプラリー」へ出発!!油小路通りを彩るのれんの下、子供たちはもちろん、保護者の方もスタンプ集めに夢中になっておられました。本能館に戻ったあとは、採点してもらった解答用紙を受け取り、「お母さん、100点やん!すごい!!」「あー、1問だけ間違えてしもた…!!」など。テスト方式のゲームに、みんな一喜一憂。お土産に古代色のれんとお揃いの色で染めて作った手拭いをもらって、解散となりました。

☆ 今回のイベントは、私自身も初めて経験するビックイベントでした。200人を超える参加者数にびっくりしました。また同時に、子供たちに目一杯楽しんでもらおうというヤル気が出ました。色当てゲームではみんなワクワクしている様子で、嬉しかったです。また、「できた!」と言って解答用紙を持ってくる笑顔を見ると、こちらまで笑顔になりました。みんなの解答用紙を採点すると、みんな殆ど正解で、すごいなぁと感心しました。私だったら絶対わからないだろうなと…(笑)。ゲームが終わり、スタンプラリーになると、みんな必死にスタンプを探している姿が可愛かったです。先生までもが夢中になっていて、楽しんでもらえてよかったと思いました。楽しんでいる子供たちを見てこちらもすごく楽しめました。2回生で、入ったばかりの本能サポート隊ですごく良い経験ができてよかったです。



(立命館大学 兼子英恵)

17日午後からの「おいでやす染めのまち本能」では、日本の伝統色のれんの華スタンプラリー・公開工房ガイドツアー・匠の実演・マイキモノプロデュースを開催しました。

のれんの華スタンプラリーは両日で約600名参加。「スタンプを一つ押し始めると完成させなくなる」スタンプ収集の魔力がはたらいて、油小路は両日賑わいました。全スタンプ押印先着者には伝統色手拭をプレゼントしました。



公開工房ツアーは17日9組62名・18日16組105名参加。参加者の居住地は京都市内9:市外7の割合でした。公開された工房は中東染工[型友禅]・金彩荒木[金彩加工]・高岡下絵[創作作家]・勝山引染[引き染め]・上木友禅[手描友禅]・村田紋縫[縫い紋]・松本金彩[金彩加工]・鹿島紋章[紋上絵]・土山印染[印染]。3コースに分け、1グループ7名前後で、1時間半ほどかけて巡りました。

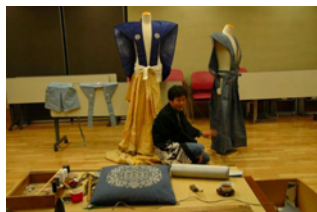




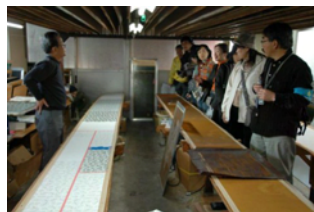
高齢者福祉施設本能1階での実演コーナーでは[京縫刺繍]片岡信・[模様糊置]福本義孝・[裱仕立て]多田修・[京野菜細工]岡田典明の各氏が匠の技を披露しました。自治会館和室でのマイキモノプロデュースではゆっくり話し合いながらお客様お好みの選択ができたようです。



片岡氏



多田氏



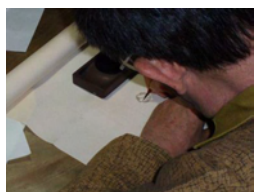
中東染工



勝山引染

### 「公開工房ツアーに参加して」

◎17日に私はアシスタントとして公開工房ツアーに参加させていただきました。私が参加したのはCツアーで金彩加工と紋上絵を見学しました。金彩加工では金箔の種類を、実物をみたり、触ったりしながら教えていただいたのが印象的です。また紋上絵では、小さい枠の中に目の前で複雑な模様を筆で描いて下さって感嘆してしまいました。案内人の方のお話もとても心に残りました。町がどのような変化を遂げてきて、どのような思いで職人の方々が今働いているのかを、ツアーの方々と町の中を歩きながら聞く中で、この公開工房ツアーを行うことの大切さを感じました。またアシスタントという形でツアーに参加できて勉強になったし、何よりとても楽しかったです。(立命館大学 安田彩峰)



← 紋上絵の鹿嶋さんは、二条城に来る外国観光客に英語で話しかけて、御自分の工房に案内し、日本の家紋の良さを知って

もらおうという、地道な活動を続けておられます。本年4月にNHKTVニュース610“京いちにち”で、9月に英字新聞“THE DAILY YOMIURI”で取り上げられました。

◎5月に、京都府立大学の講義にて紋章の鹿島氏と下絵の高岡氏が、実演を披露して下さいました。ほんものの技術を間近で拝見することができ、着物や伝統産業にとっても興味を持ちました。家紋をはじめ、様々な伝統文化や産業が途絶えることはとても勿体ないと感じます。

(京都府立大学 3回生 大岩麻由子)

◎今回、おいでやす染めのまち本能にお手伝いという形で参加させていただきました。普段見ることのできない職人さんたちの技を間近で見ることができ、私自身にとっても貴重な体験になりました。

上木友禅

公開工房ツアーに同行させていただきましたが、参加者が職人さんたちに絶え間なく質問をしている姿が強く心に残っています。「また来たい」という市外からの参加者の声も多く耳にしました。地域外の人々に本能のまちについて興味や関心を持ってもらえたことは、地域に



にとってよい刺激になったと思うし、本能のファンが増えることは地域活性化にも繋がっていくだろうと思います。地域の方々にとっても、自分たちのまちを考え、再認識するいい機会になったのではないのでしょうか。

京都だけでなく他県からの参加者も大勢いましたが、それはこのイベントの知名度が全国的にも広まりつつあることの表れなのではないかと思います。今後の本能学区の展開が楽しみです。(立命館大学 臼田雅実)

### 「京都文化を知れるまち」

◎京都で一人暮らし始めて4年目になりますが、1年目に寺院などをまわった際に感じた京都らしいインパクトを感じる機会が年々、少なくなっていた中で、今回公開工房のお手伝いをさせていただき、久しぶりに京都らしさを感じることができました。趣のある町家の中、普段決して見ることの出来ない工房で作業をする職人さんの姿がとても印象的であり、着物はこのような職人さんたちが自分の技術を生地の上で表現した芸術品であると思います。

また工房見学には近所に住んでおられる方も参加されており、京都で暮らしながらも知る事の出来ない京都の文化を味わうことの出来る素晴らしいイベントだと思います。最後になりましたが、楽しかったです。ありがとうございました。(京都府立大学 秦 敦旨)

本能サポート隊のみなさんに参加者アンケート調査をしていただきました。ご協力くださった参加者の皆さん、ありがとうございました。アンケート自由記述欄よりいくつかご紹介しましょう。

(子供たち)◎今回来るのがはじめてでドキドキしたけど楽しかったです。◎全部揃ったらきれいでした！

(保護者)◎こどもたちが地元を知る良い企画だと思います。◎活気があって楽しい雰囲気良かったです。

(一般参加者)◎日本の色には、それぞれ素晴らしい名前がついていますね。子供たちにも、色の美しさを知ってもらえればと思っています。◎工房ツアーでは、普通ではなかなか拝見できないところを訪問でき、感激です。自分の持つ着物を、より大切に感じる事ができました。



村田縫紋

今回の総来場者数は約850人でした。皆様ありがとうございました。本能まちづくり委員会は、これらのイベントの催行により本年11月29日「第3回イベント大賞 制作賞」(社団法人日本イベント産業振興協会主催)を受賞することに決定しました。表彰式は来年1月30日に東京で行われます。詳しくは次号でお伝えします。

## 池須町の名前の由来と西洞院川

〔山田町の村田さんからお寄せいただきました。ありがとうございます。〕  
9月28日の第4回本能ものしり講座で、池須町の名前の由来と西洞院川との関係について質問がありましたので、『公同沿革史』で調べました。

六角魚市として、京都市民の食膳に上る海産物が、瀬戸内海沿岸地方から、先ず京都の外港として栄えた淀へ入り、その品が流通の拠点として、六角町に鮮魚市が設けられ、近江の粟津供御人が、鮮魚を販売する独占権を得て、粟津座とも言われていたそうです。さらに鳥の独占権も得て、禁裏(御所)だけでなく、市中の魚鳥専売権を持っていたようです。この六角の魚商人は、平安末期より存在し、鎌倉末期には、内蔵寮(現在では宮内庁長官官房)の供御人として現れ、室町時代末期には、魚商の密集地帯を形成したそうです。六角町とは、六角西洞院池須町のことで、西洞院川の清水が役割を果たし、六角供御人として、六角町に居住して、生魚販売の独占権を持っていたと書いてあります。

また『格致百年史』には、高辻西洞院で、七代目の材木商を営んでおられる方が、ご自分のお宅の向かいから撮られた写真を掲載されており、西洞院川が写っております。「京の五条の橋の上」牛若・弁慶の立ち回りも、実は西洞院松原での出来事であると言われています。五条天神宮(西洞院松原下る 旧名五条天神社)の木立にひそんでいた弁慶が飛び出して、牛若丸と闘ったのが、西洞院川の橋の上だったと言われています。現在の松原通りは、昔は五条通りでした。



『格致百年史』より

資料は『公同沿革史』上巻(秋山國三著 昭和18年11月3日発行)・『格致百年史』

平成19年11月3日

山田町 村田 茂雄

村田さんの原稿は本能まちづくり委員会ホームページに掲載しています。ご覧下さい。本能まちづくりニュース・本能まちづくり委員会ホームページへの皆様のご投稿をお待ちしています。

補記☆『公同沿革史』上巻は京都の町組研究の基本とされている書物です。著者の秋山國三氏(1907～1978)は三条室町西入、茶間屋千切屋の生まれ。「公同」とは、「公同組合」からの言葉で、京都に明治30年から40年間ほど設置されていた町組制度。戦国末期より300年間、京都の町民の日常生活に深く関わっていた町組制度が、1889年(明治22年)の市制施行を機に廃止されました。が、市民の要望により8年後の1897年(明治30年)に「公同組合」という名で再生されたものです。秋山氏は、昭和15年の公同組合解散を機に、その成立に至るまでの京都の町組の歴史を公同組合の沿革として書かれたそうです。(『近世京都町組発達史<新版・公同沿革史>』秋山國三著 法政大学出版局 1980年刊行)公同組合という組織は戦時中に、国が全国一律に編成した町内会のモデルになったともいわれています。

☆時代が下るにつれ、淀の魚市が腐敗のおそれの少ない塩・塩化合物を専門にしたのに対して、六角町は鮮魚を扱ったそうです。『洛中洛外図屏風上杉本』右隻の西洞院四条坊門あたりには西洞院川の中で水を汲む男達の姿が描かれています。池須町は、「生洲町」とも書かれ、1665年刊『京雀』の「東がわに魚やありて生洲をこしらえて川魚をうりけり、今はた江てその生洲は民家の井のもとになれり」に抛り、川魚を入れる生け簀があったことに由来する町名とされています(『京都市町名変遷史5』)。

☆現在の五条通は、もと六条坊門小路。豊臣秀吉が、方広寺大仏殿建造の際に、五条大路(現在の松原通)の鴨川に掛かっていた五条橋を、六条坊門小路に移し架け替えさせたため、「五条通」と呼ばれるようになったそうです。(N村)

## 学区情報 時代祭

今年の時代祭は、日影学区が大当番で、城南流鏑馬列は高倉小学校から出発しました。10月22日は天候に恵まれ、校庭では準備を整えた行列が高倉校の児童たちの前に並び、平安講社の世話役さんがお祭の由来や衣裳の説明を行いました。10時30分頃、子供達や近隣から来られた方々に見送られ、区内を一巡して御所に向かいました。本年、本能学区は五番大将のお役目。西嶋直和氏親子三代が射手武士・弓袋差・童を勤められました。今年は、室町時代列の新設で話題をよびました。



## 学区を綺麗に～本能一斉清掃～

11月4日(日)午前9時から、本能自治連合会の呼びかけで、小1時間、学区内一斉清掃が行われました。本能消防分団の助けを受け、本能学区を4区に分け、5、6人ずつ班分けしてゴミ拾い。残り的人達は本能グラウンドの草抜きをしました。マンションにお住まいの方々や特養の職員さんも来られ、ボランティア参加者は50人ほど。皆で朝日を浴びて一汗かきました。平野雅左夫自治連合会会長より「学区民が一体となり、さらに区内が美しくなることを願っています。来年もお集まりください。」とのことでした。



## お知らせ

### 餅つき交流会

12月23日 AM10:00～PM2:00

本能之辻にて 雨天実施

### 新年互礼会

2008年元旦 PM1:00～2:00

本能自治会館にて

### 本能学区成人式

2008年1月14日 AM9:30～本能自治会館

AM11:00～八坂神社成人祭

常盤新殿にて懇親会

## ひとこと

◎恒例となった「のれんの華スタンプラリー」にはこの秋、「日本の伝統色」が新たに12色加わり、紅葉と並ぶ、まちなかの鮮やかさになりました。(ゆ)

◎いつも本能のイベントに関わらせていただいておりますが、子供の元気さには圧倒されました。(S&K)

◎秋は行事が多いですが、改めて学区のことを再発見できたり、人との出会いがあり「充実の秋」ですね。(あ)

◎本能一斉清掃、また行事が終わった後のお掃除。皆で手分けしてできて気持ちいいものです。(N村)